



# 節目の50回記念大会

第50回  
熊本甲佐10マイル  
公認ロードレース記念大会

女子5キロの部で日本新記録が誕生!!

12月7日(日)、熊本甲佐10マイル公認ロードレース大会が町役場前を発着点とする日本陸連公認コースで開催され、6部門で熱戦が繰り広げられました。女子5キロの部では、西出優月選手(ダイハツ)が15分21秒の日本新記録をマークし、初優勝を果たしました。2位の西山未奈美選手(三井住友海上)も同タイムで続きました。

10マイルの一般競技者の部では、西研人選手(大阪ガス)が45分55秒で初優勝。9月の世界選手権マラソンで23位の小山直城選手(ホンダ)は、46分6秒で2位となりました。国際競技者の部は、イエゴン・ヴィンセント選手(ホンダ)が45分52秒で制しました。

10キロの部では、一般競技者の部のマンガッタ・キベト選手(マツダ)が28分28秒で優勝。高校男子の部は園木縁選手(熊本工業高校)、中学男子5キロの部は野中大雅選手(福岡・明星中)が15分9秒の大会新記録でそれぞれ頂点に立ちました。

敢闘賞は2人に贈られ、10マイルの部で一般競技者最上位の3位となった木村慎選手(ホンダ)と、県内登録選手で女子4位の堤好伽選手(肥後銀行)が選ばれました。新人賞は、10マイル一般6位の吉田礼志選手(ホンダ)。地元競技者賞には、本町出身の薮田航希選手(九州学院高校)と松永真旺選手(千原台高校)が輝きました。

また、女子5キロ中学生の部の1〜6位入賞者には、女子敢闘賞が贈られました。

さらに、第50回大会を記念し、町役場の敷地内に記念碑が建立され、レースのスタート前には除幕式が行われました。大会の歩みと地域に根付いた歴史を後世に伝える象徴として、多くの関係者が節目の大会を祝いました。







# 大会50年の歩み

昭和27年

12月14日

熊本甲佐10マイル公認ロードレース大会の前身である、第1回熊本甲佐マラソン大会が熊本日日新聞社主催（後援 熊延鉄道・甲佐町）で行われた。コースは、熊本日日新聞社前から甲佐小学校（甲佐町豊内）校庭までの25<sup>キ</sup>でスタートした。

昭和51年

従来の甲佐マラソンを、第1回10マイル甲佐マラソン大会（熊本日日新聞社、熊本バス、甲佐町、甲佐町体育協会共催）と変え、甲佐町中央公民館（甲佐町豊内）前をスタート、ゴールとし、甲佐町白旗折り返しのコースで再スタートした。

昭和55年

第5回大会を記念し、旭化成の宗茂・猛兄弟を迎えて陸上教室を開催した。

昭和58年

12月11日  
**日本陸上競技連盟の公認コースとしてスタート**

第8回大会から、同コースは日本陸上競技連盟の公認コースとなり、名称を「熊本甲佐10マイル公認ロードレース大会」と変更し開催した。同回大会から、新たに女子5<sup>キ</sup>の部を設け、一般10マイル・高校10<sup>キ</sup>・中学男子5<sup>キ</sup>の4部門でスタートを切った。

平成元年

第14回大会。後のバルセロナオリンピックのマラソンで銀メダルを獲得した森下広一（旭化成）が招待選手として出場し、46分34秒の大会新記録で優勝。

平成2年

第15回記念大会。モスクワオリンピック、ロサンゼルスオリンピックに選出された宗猛（旭化成）や浦田春生（本田技研狭山）を含め総勢16名の選手を招待。初めての外国人選手であるトーマス・オサノ（沖電気宮崎）が出演し、6大会連続の大会新記録となる、46分24秒の好タイムで優勝。出場者も、各部門総数850名を超えた。

## 第50回大会結果

### 10km 高校男子の部



### 10 マイルの部（国際競技者の部）



- ① イェゴン ヴィンセント (Honda) 45分52秒
- ② エバンス ケイタニー (トヨタ紡織) 45分53秒
- ③ ベナード ランガット (Honda) 46分07秒

### 10 マイルの部（一般競技者の部）



- ① 西 研人 (大阪ガス) 45分55秒
- ② 小山 直城 (Honda) 46分06秒
- ③ 木村 慎 (Honda) 46分07秒

- ① 園木 縁 (熊本工高) 29分52秒
- ② 洞口 稟太郎 (九州学院高) 29分57秒
- ③ 澤山 康介 (自由ヶ丘高) 30分06秒

平成7年

第20回記念大会。第1回大会から19回大会までの歴代優勝者を特別招待し、功労者表彰を行った。

平成8年

第21回大会。川嶋伸次(旭化成)がJ・シーブラー(NEC)とゴール直前までデッドヒートを展開し、日本最高記録にあと12秒と迫る45分52秒の好記録で優勝を飾った。

平成17年

第30回記念大会から、10マイルの部において一般競技者の部と外国人選手と日本人選手を含めた国際競技者の部に分けて開催した。

平成18年

第31回大会から、移転した役場新庁舎からのスタート、フィニッシュとなった。

平成28年

第41回大会、10マイルの部では、箱根駅伝で活躍した「山の神」今井正人(トヨタ自動車九州)、柏原竜二(富士通)、神野大地(コニカミノルタ)の3名がエントリーし、ロードレース初のそろい踏み、スタート前から異常な盛り上がりを見せた。レースでは、神野大地が粘りの走りを見せ、2位の今井正人に8秒の差をつけて優勝し、新人賞も獲得した。

令和2年

新型コロナウイルス感染症の全国的な流行により、令和2年と3年は、2年連続中止となる。

令和6年

第49回大会から、WA(ワールドアスレティックス)の公認を取得し、WRK(ワールドランキングコンペティション)の対象レースとなった。

令和7年

第50回記念大会。「第50回記念碑」を町役場敷地内に建立。女子5kmの部で、日本実業団陸上競技連合からの派遣選手・西出優月(ダイハツ)が15分21秒の日本新記録で優勝した。

### 5km 女子の部



- ① 西出 優月 (ダイハツ) 15分21秒 日本新
- ② 西山 未奈美 (三井住友海上) 15分21秒 日本新
- ③ ドルーリー 朱瑛里 (津山高) 15分56秒

### 5km 中学男子の部



- ① 野中 大雅 (明星中) 15分09秒 大会新
- ② 山田 暁雅 (西合志中) 15分13秒
- ③ 野田 佳佑 (ALL八代) 15分25秒

### 10km 一般の部



- ① マンガッタ キベト (マツダ) 28分28秒
- ② キプタムヴィクター (安川電機) 28分29秒
- ③ フェスタス キモルウォ (黒崎播磨) 28分38秒